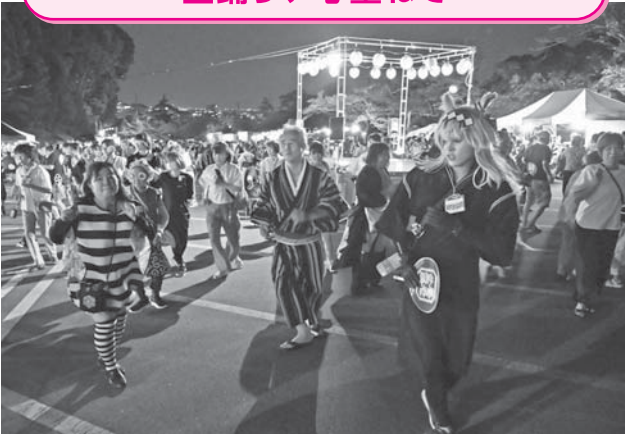


盆踊り、心重ねて



7月下旬から8月中旬にかけて町内各地区で夏祭りや盆踊り大会が開催されました。7月31日(金)には養老公園 養老の滝入口駐車場にて、養老孝子坂命名10周年記念イベント 第7回養老公園盆踊り大会が開催され、町内外から多くの人が訪れ、賑わいました。

養老をテーマとした仮装やコスプレをした参加者らが、養老おどり保存会と一緒に「養老音頭」や「ひょうたんブギ」などのご当地音頭や定番の音頭に合わせて踊りました。また、会場にはたくさんの屋台やキッチンカーも出店し、ちびっこ縁日の開催、パトカーや消防車の展示などもあり、世代や地域を超え、誰もが楽しめる盆踊り大会となりました。

大切なのは予見力と実行力



7月12日(日)に町中央公民館 中ホールにて、げんさい楽座in養老町(ぎふ防災・減災センター主催)が開催されました。同センターのコーディネーターで日本防災士会岐阜県支部長を務める岩井慶次さんが講師となり、「近年の自然災害に学ぶ 逃げ時マップから考えるマイタイムライン」をテーマとして、他市町の被災例を交えた講演が行われ、併せて参加者自身が避難のタイミングを確認するためのマイタイムラインを作成しました。岩井さんは「事前に地域の危険な箇所や問題点を把握し、被災時にどこから情報を得て、どのように避難するかを確認しておきましょう」と日頃の備えの大切さを話し、参加者はそれぞれ作成したマイタイムラインをもとに、地域防災について活発に意見交換しました。

J2昇格を目指して!みんなのFC岐阜!



7月31日(金)に養老町ホームタウン応援大使を務めるFC岐阜の福田晃斗選手がシーズン開幕に合わせて町を訪れました。田中一也副町長は「FC岐阜は子どもたちの夢や希望を身近に感じられる存在です。J2昇格に向けて頑張ってください」と激励しました。福田選手は「目標であるJ2昇格を達成して養老町や岐阜県をさらに盛り上げていきたいです」と今シーズンへの意気込みを語りました。

また、福田選手は庁舎内を回りながら町職員と交流を深め、町職員からは応援の声が送られました。町民一丸となってFC岐阜のJ2昇格に向けた挑戦を応援するとともに、10月3日(土)のホームタウンデーでは会場を一緒に盛り上げましょう。

生で観て、肌で感じる“迫力と臨場感”



10月3日(土)に開催されるFC岐阜ホームゲームが養老町のホームタウンデーであることを記念し、7月10日(金)に同ゲームのサックスマッチ企業である株式会社大垣共立銀行より特別招待券100枚を寄附いただきました。

五藤義徳取締役専務執行役員は「今年はワールドカップも開催され、サッカーが熱気を帯びています。プロの試合を観戦し、子どもたちに迫力や臨場感を肌で感じてもらうことで、夢や目標を持つきっかけとなると嬉しく思います」と寄附に込められた思いを話しました。いただいたチケットは、町内のサッカー少年団や中学校・高校のサッカー部員などに配布し、子どもたちの夢や目標を育みます。